

朝日大学は、国際未来社会を切り開く社会性と創造性、そして、人類普遍の人間的知性に富む人間の育成をめざします。

医療の光と影

東日本大震災という未曾有の大災害から間もない昨年秋、「医療と新しい日本の創造」と題して開講いたしました。「朝日大学公開講座」は大変なご対応・ご反響をいただきました。あれから1年、被災地の復興が急がれますいま、人間にこゝで大切なものを見つめ直すという意識が既々日本人の心に強く生まれて来た様に思われます。歴史南洋大学創立以来、私ども朝日大学が取り組んできた「人の命」を守る医療について、今頃はとくにグローバル化、医療をとりまく法的課題など身近なテーマについて、今一度検討したいと考えております。26年目を迎える本年度の「朝日大学公開講座」では、「医療の光と影」をメインテーマとして、医療の最前線でご活躍中の各界のエキスパートをお迎えし、それぞれのお立場からご提言いただきます。

座長 朝日大学学長 大友克之

8.25 SAT
「動き始めた新たな医療紛争処理」
基調演者 講師：朝日大学大学院 法学研究科教授 植木 哲
基調講演・シンポジウム 講師：朝日大学大学院 法学研究科教授 平田 勇人
講師：三重大人文学部長 樹神 成先生
講師：弁護士 横山貴之先生

9.8 SAT
「健康を科学する—朝日大学歯学部附属村上記念病院 総合健診センター新築移転記念—」
講師：京都府立医科大学生・同大学大学院医学研究科消化器内科学教授 古川 敏一先生
講師：明海大学学長・同大学医学部教授 安井 利一先生
講師：朝日大学歯学部附属村上記念病院 総合健診センター長・歯学部教授（内科学） 小島 孝雄

9.15 SAT
「グローバル化する医療と国際化」
講師：学校法人順天堂理事長・日本私立医科大学协会会长 小川 秀興先生
講師：中外製薬株式会社 代表取締役会長 永山 治様
講師：北海道医療大学 大学教育開発センター（歯学部併任）教授 半田 拓二郎先生

開講時間：各日13:30 開講 会場：瑞穂市総合セントーサンシャインホール
(岐阜県瑞穂市總領町1263番地) 受講料：無料

—お申込み—
FAXかE-Mailで、事前に申し込みをお願いします
FAX: 058-329-1253
(本書裏面に必要事項をご記入の上送信)
E-Mail: gaku2@eclive.asahi-u.ac.jp
(本書裏面の必要事項をご記入の上送信)

2012
朝日大学
公開講座

朝日大学では、「地域と共に歩む大学として日頃の研究成果を社会に還元する」ことを目的に、1987年度から日常生活に身近な話題をテーマに取り上げた公開講座を開講している。第26回となる今年度は、「医療の光と影」をメインテーマとして、医療の最前線で活躍中の各界エキスパートから提言をいただき、地域社会の幅広い層の人々へ学習の機会を提供した。

HOT TOPICS



医療の光と影

東日本大震災という未曾有の大震災から間もない昨年秋、「復興と新しい日本の創造」と題して開講した「朝日大学公開講座」では、大変な好評や反響を得た。

あれから1年、被災地の復興が急がれる今、人間にとって大切なものを見つめ直そうという意識が我々日本人の心に強く芽生えてきている。

岐阜歯科大学創立以来、朝日大学が取り組んできた「人の命」を守る医療について、今回は特にグローバル化、医療をとりまく法的課題など身近なテーマを今一度検証することを目的として、「医療の光と影」と題し、各界のトップリーダーを迎え、それぞれの立場から提言を受ける公開講座が瑞穂市総合センター内サンシャインホールで開催された。

動き始めた医療紛争処理

第1回の公開講座では、大学院法学研究科の植木哲教授が「医療裁判から医療ADR(裁判外紛争処理)へ」と題した基調講演を、また、3名の法律の専門家からは基調報告がなされ、より安全な医療体制の構築や患者と医療者間の信頼回復について意見交換が行われた。県内外から集った受講者は医療の紛争処理が抱える諸問題について理解を深めた。

制度としての医療と行為としての医療

三重大学人文学部長 樹神 成 教授

医療紛争における「患者側弁護士」の役割

愛知県弁護士会 横山 貴之 弁護士

望ましい医療紛争解決をめざして

朝日大学大学院法学研究科 平田 勇人 教授



基調講演「医療裁判から医療ADR(裁判外紛争処理)へ」：植木法学研究科教授

健康を科学する

村上記念病院総合健診センター新築移転を記念して開催された第2回目の公開講座では、「予防医学」に光をあて日々の健康管理の重要性や長寿の秘訣が3名の医師・歯科医師から紹介され、受講者は予防医学の大切さを学んだ。

病気の治療から予防へ

京都府立医科大学 吉川 敏一 学長

歯・口の健康科学－生活の質的向上を求めて－

明海大学 安井 利一 学長

人間ドックのすすめ－予防は治療に勝る－

村上記念病院総合健診センター長 小島 孝雄 教授



左から大友学長、吉川学長(京都府立医科大学)、安井学長(明海大学)、小島センター長が予防医学を語る

グローバル化する医療と国際化

第3回目の公開講座では、「世界の医療事情」に光をあて日本が行う国際医療貢献とそこに内在する課題について、3名の識者による講演が行われ、受講者はよりグローバル化する医療の未来について学んだ。

グローバル化する医療と国際協力－日本の医学・医療の現状と未来－

順天堂大学 小川 秀興 理事長



医薬品業界が直面する課題 ーグローバルな視点からー

中外製薬(株) 永山 治 代表取締役会長



日本型マネージメントで守る途上国の人命と健康

北海道医療大学教育開発センター長 半田 祐二郎 教授



「中国国家友誼賞」を受賞

宮田侑理事長が、北京(中国)の人民大会堂において、外国人に与えられる最高位の賞「中国国家友誼賞」を受賞した。

同賞は、中国の科学技術、教育、文化、社会開発、経済などの発展に長年にわたり貢献した外国人専門家に与えられる最高位の名誉ある賞。

「中国国家友誼賞」受賞の宮田理事長このたびの受賞は、中国の教育分野における発展と人的交流による日中友好を推し進めてきた功績が認められたもの。



国際未来社会を切り聞く

これまで朝日大学では、北京大学口腔医学院ならびに第四軍医大学(西安)との姉妹校協定等を締結し、教員(研究者)や学生の相互交流をはかってきた。また、1989年には中国における優秀な歯科医師の輩出に多大な貢献をはたしている北京大学歯科臨床研究所設立に際し、診療機器や建設資材を寄贈した。また、中国における教育・学術の促進や積極的な留学生の受け入れを継続的に推進し、2001年には本学に留学生別科日本語研修課程を設置し、国際性豊かな人材育成を推し進めている。

CQ Universityからの来訪

法学部と経営学部が実施している「短期海外研修プログラム」の研修先であるオーストラリアCQ University English Language CenterからTim Somerset氏が来日し、穂積キャンパスを訪問した。

チャンスがあれば再び海外へ

Tim氏は、模擬法廷やELS教室など本学の学修環境を視察、その後、同大学での研修に参加した学生や教員たちと交流を深めると共に、今後の研修プログラムのあり方などについて有意義な意見交換を行った。

参加した学生たちは、研修での思いでや将来の夢などについて英語で語り、「CQ Universityでの経験を生かし、将来は国際的な仕事につきたい」と夢を語った。



Tim氏と参加者たちが記念撮影

オリンピックを語る!

「フロンティアセミナー」を開催

瑞穂市とその周辺地域にある大垣共立銀行の5支店が主催する「第23回フロンティアセミナー」が本学協賛のもと、穂積キャンパス1号館大講義室において開催された。

オリンピックを語る新井准教授同セミナーでは岐阜市、瑞穂市、本巣市などの市民ら約80名が体育会フェンシング部総監督である経営学部新井祐子准教授の講演を聴いた。

同セミナーは、大垣共立銀行が同行の進める地域活性化事業の一環として実施している催事で、朝日大学では、「大学の知的財産」を地域社会の皆様に還元できればと、第1回目の開催から協賛している。

オリンピックから学ぶ

今回のセミナーでは、新井准教授から「オリンピックから学ぶ」と題し、アトランタ・シドニーオリンピックへの出場を通じて国際舞台で学んだこと、ロンドンでの日本人選手らの活躍の原動力は何か、などフェンシング競技の魅力を織り交ぜながら説明。受講者らは国際舞台で堂々の活躍をみせた日本人選手の姿を思い浮かべつつ講演に聴き入っていた。

このフロンティアセミナーは、今後も半年に一度本学を会場として開催される予定である。



STUDY



「観光の未来」を学ぶ

本学姉妹校の明海大学ホスピタリティ・ツーリズム学部教授白田眞一氏による「観光の未来」と題する講演会が穂積キャンパス6号館講義室で開催された。講演会は産業情報研究所「研究プロジェクト(地域と観光の未来)」の一環として、同研究所が主催。近年、岐阜県でも観光に関する関心は非常に高く、多くの教員と学生が熱心に白田氏の講演を聴講した。

オンリーワンの地域づくり



白田氏が「観光の未来」を語る

(株)JTBアジア総支配人の経験を有する白田氏は、観光に関する変化を様々な側面からとらえ、観光が「画一的な旅行」から「いきいきとした地域との出会い」へと変化してきていることを解説、「地域が元気にならないと観光業は成り立たない。これからは、オンリーワンの地域づくりが大切となる」と語った。

講演会によって観光と地域経済・文化との関係をより一層深く理解することができ、ツーリズム産業を志す学生にとって非常に役立つものとなった。

大学広報の果たす役割を学ぶ

昨年度に開学40周年を迎えた朝日大学で、あらためて大学の広報を考えようと「大学広報を考える会」が開催された。同会では講演会が開催され、報道機関、広告代理店、出版社などの関係者約100名が参加した。

ソーシャルメディア活用

「ソーシャルメディア活用の現状」と題した講演会では、(株)進研アドBetween編集部の加藤岳大氏から、ソーシャルメディアの現状分析や未来予測が解説されると共に、「若者やビジネスマンの情報収集ツールとしてtwitter、facebookなどの利用が主流となった今日、ビジネス界や教育界でもソーシャルメディアの積極的な活用が求められることとなる」と語られた。

講演会終了後は、会場を移し情報交換会が行われ、参加者それぞれの業種(立場)から見た昨今の大学広報やメディアの果たす役割などについての意見が活発に交わされていた。



進研アドBetween編集部の加藤氏が講演に、「若者やビジネスマンの情報収集ツールとしてtwitter、facebookなどの利用が主流となった今日、ビジネス界や教育界でもソーシャルメディアの積極的な活用が求められることとなる」と語られた。

産学官懇談会で講演



(社)岐阜県経済同友会産学官懇談会が岐阜グランドホテルで開催され、大友克之学長が講演会の講師を務めた。

「医療保障と病院経営を考える」と題した講演で大友学長は、2025年にはベビーブーム世代が75歳以上の年齢に達し、社会保障給付費の総額が144兆円に達すると試算されているなかで、日本経済の実態や医療を取り巻く経営環境の現状を説明すると共に、医療機関の改革推進など、時代到来に向け取り組むべき様々な課題について解説を行った。

参加した県内の企業経営者らは、超高齢化社会に向けた医療分野の取り組みと展望について熱心に耳を傾けていた。

中学生が大学生と共に学ぶ

子どもの論理的な思考を培う「岐阜法教育推進プロジェクト」が、穂積キャンパス6号館模擬法廷で開催され、岐阜聖徳学園大学附属中学校の生徒と法学部の学生たちが「刑事裁判」について共に学んだ。

有罪か無罪か

模擬法廷に集った中学生たちは、法学部の大野正博教授(刑法)から「法とは、裁判員制度とは何か」を題材とした授業を午前中に受けた。午後からは、法学部学生で構成する「劇団 中学生が大学生と有罪・無罪を話し合う朝日」の裁判劇を鑑賞。窃盗事件を題材とした裁判劇を通して「被告人は有罪か、無罪か」を大学生たちと共に議論し評議を行った。参加した中学生は「模擬裁判を体験し、人の一生を左右することの重さを理解した」と話した。



高大連携講座を開講

商業高校の教諭を対象とした「課題解決・専門性向上講座」が岐阜県総合教育センター(岐阜市)で開講され、マーケティング研究所の中畠千弘所員(経営学部教授)が「広告と販売促進」をテーマに講師を務めた。

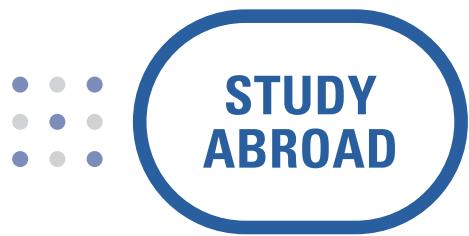
本講座は、昨年度までの「専門性向上講座(商品開発)」に続くもので、来年度からの新学習指導要領の新設科目「広告と販売促進」に対応した講座として今年度から新しく開講された。

グループ研修に取り組む

研修では、大企業を中心とした販売促進事例を題材に、プロモーションミックスやマーケティング・コミュニケーションの考え方などを解説。「チョコレートのキャンペーン」を題材に、ターゲティングから広告コンセプトの立案、景品キャンペーン内容の検討や起用タレント設定などのグループ研修が行われた。

また、講座では、地元個人商店が抱える広告PR上の課題やニーズ、商業高校が取り組むべき課題研究のあり方などについても解説され、参加した教諭らは、今後の授業で実践展開すべく熱心に意見交換や討議を行っていた。

歯学部海外4カ国・7大学で研修



実り多き成果を報告

歯学部では、国際的な視野を持ち、幅広く活躍できる歯科医師を育成するために、毎年夏季休業期間等を利用した学生の「短期海外研修」を実施している。

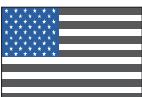
5年生を対象とした海外研修の費用は全額大学が負担。学生にとって、海外の医療の現場を知る絶好の機会といえる。今回、海外4カ国・7大学での実り多き研修が終了し、研修成果が報告された。



アメリカ

5名

カリフォルニア大学ロサンゼルス校



アメリカ

5名

テキサス大学サンアントニオ校



アメリカ

5名

アラバマ大学バーミングハム校



スライドによる自己紹介が国際交流のスタート。歯科医師として「生涯研修における向上心」が重要とのレクチャーを受ける。教員は学生を一人の歯科医師として扱い、学生自身も歯学部生としての自覚を持ち、教育と診療に取り組んでいる姿勢に共感。

臨床実地教育や講義に参加し歯科教育の違いを経験。学生の勉学に対するモチベーションの高さに共感する。肌で感じたTEXASの文化・社会性が国際性豊かな歯科医師を育成する。

ホストの学生と一緒に病棟研修、公民権研究所・疾患予防管理センター・アメリカ航空宇宙局(NASA)を見学、ガントーズビル湖へのエクスカージョン。すべてが英語の生活に不安と違和感、しかしそれも当たり前になり慣れていく自分に驚く。



メキシコ

メキシコ州立自治大学

5名



地球の裏側で、まさに国際交流を実体験。普段陽気な学生の振る舞いが、授業では一転「厳格な講義」へと。勉学に対する「真摯な態度、モチベーションの高さ」を学ぶ。



中国

第四軍医大学
口腔医学院

5名



西安市の旧名称は長安。西周時代から秦、漢、隋、唐の都であり、古代より政治の中心地として発展。軍医を養成する大学で、他の大学では体験できない研修プログラムに参加。



中国

北京大学
口腔医学院

5名



中国最大の歯学部で歯科医学の中心的役割を、充実した施設・建物で実感。ハイレベルな講義と手術室見学で、「将来の歯科医師」としての自覚がめばえる。



フィンランド

トゥルク大学

2名



トゥルク大学はフィンランドの古都トゥルク市にある私立大学。歯学部ではキシリトールを用いた齲歯予防やファイバープリッジを用いた治療など、大学発祥のオリジナリティにあふれる高度な歯科治療・教育研究が行われている。

TOPICS



「MSL・MSJサミット」に参加

法学部の学生で組織する防犯ボランティア団体「めぐる」が、北方町生涯学習センター（本巣郡）で開催された「MSL・MSJサミット」に参加した。

同サミットは、規範意識向上や非行防止活動を行う高校生・中学生の自主組織「MSリーダーズ、MSジュニア」の活動事例を発表するサミットで、瑞穂市周辺地域の中学校・高校の生徒ら約200名が出席した。



「MSL・MSJサミット」が開催される
活動を行なう高校生・中学生の自主組織「MSリーダーズ、MSジュニア」の活
動事例を発表するサミットで、瑞穂市周辺地域の中学校・高校の生徒ら約
200名が出席した。

防犯ボランティア活動

岐阜県警北方署などからの要請をうけた防犯ボランティア「めぐる」は、「地域連携と防犯啓発活動」と題し、地域社会と連携した日頃の活動内容や防犯ボランティア活動を通じて学んだことなどを報告。会場に集った生徒や関係者たちは、「めぐる」の報告に真剣に耳を傾けていた。

朝日大学は、今後も地域社会との連携をはかり、地域住民の犯罪防止や防犯意識の向上に努めていくこととなる。

MSL(Manners Spirit Leaders)
高校生が組織する規範意識啓発推進委員

入院患者を癒すコンサート

村上記念病院（岐阜市橋本町）で、入院患者らを対象にした院内コンサートが開催され、約250名の聴衆が演奏に聴き入った。

今回のコンサートでは、地元岐阜市を中心に活動している津軽三味線「里奏会」が、津軽三味線の軽快な音色を披露した。花笠音頭、炭坑節や郡上おどりなどが演奏されると入院患者たちは、一緒に歌ったり三味線

に合わせて鈴を鳴らしたり院内コンサートを楽しんだ。

このコンサートは、地域貢献の一環として毎年夏と冬に行われており、病院生活でふさぎがちになる入院患者の心を毎回癒している。



津軽三味線の音色が響いた院内コンサート

産学連携活動を推進

大学院経営学研究科では、魅力ある大学院をめざし、産学連携活動をより一層推進することで、全国規模での事業展開をはかる地元企業と連携し教員研修会を開催している。

物流業界の最大手である西濃運輸（株）と連携した研修会では、大塚委利代表取締役社長が「物流インフラで企業活動と国民生活に寄与する」と題し、「全国輸送ネットワークの構築により今日の物流需要へのフレキシブルな対応が可能となっている」と語った。講演後に参加者たちは、同社物流センターとトラックターミナルの施設を見学し、躍進する物流業界の最新現場を確認した。



大塚西濃運輸（株）代表取締役社長

さらなる産学連携の展開

また、医薬品卸売の最大手である（株）メディセオの副社長を務めた山岸十郎顧問を講師に迎えた研修会では、医薬品卸売業界における流通・在庫管理の手法や将来展望の講演を聴くと共に活発な情報交換を行った。



（株）メディセオの新世代型物流センターを見学

参加者たちは講演に先立ち、医薬品流通の最適化をめざし整備された同社の新世代型物流センターを見学し、最先端のノウハウを学んだ。

経営学研究科では、今後も産学連携を推進し、新しいビジネスモデル構築やプロジェクト型研究を積極的に進めていく。

「ぎふ清流国体」 炬火リレーをサポート

ぎふ清流国体の炬火リレーが瑞穂市内で行われ、体育会所属の学生や防犯ボランティア団体「めぐる」のメンバーら総勢55名が参加した。学生ボランティアとして参加した学生たちは、厳しい日差しのなかテント設営や交通誘導などのスタッフとして積極的にボランティア活動を行った。

炬火リレー歓迎式典の会場となった市庁舎前では、堀孝正市長の挨拶で幕を開け、会場には多くの市民が訪れ国体開催を盛り上げていた。

岐阜県が天皇杯・皇后杯を獲得

体育会所属の学生たちが大活躍した「ぎふ清流国体（9/29～10/9）」は、岐阜県が47年ぶりの天皇杯・皇后杯を獲得し終了した。学生たちの活躍については、次号で紹介予定。



瑞穂市庁舎前での
炬火リレー歓迎式典

フェンシング 「全日本選手権」で みごとな活躍

「全日本フェンシング選手権個人戦」が国立代々木競技場(東京)で開催され、体育会フェンシング部の岡田真季選手(ビジネス企画4年:香川)と田村紀佳選手(同学科3年:群馬)が、それぞれ女子エペとサーブルでみごと3位入賞をはたした。なお、女子エペを制したのはロンドン五輪代表の中野希望選手(大垣共立銀行)。また、女子サーブルでは、本学OGで同じく五輪代表の中山セイラ選手(大垣共立銀行)がみごと3連覇をはたした。

ロンドン五輪を報告

ロンドン五輪フェンシング競技に出席した中山選手(2006年経営学部卒業)と中野選手が成績報告のため、所属する大垣共立銀行関係者とともに本学を訪問した。中山選手は世界の強豪選手を相手に果敢な戦いを挑むも2回戦で敗退。しかし、オリンピック初出場というプレッシャーのなか、最後まであきらめずに全力で戦ったプレーは感動的であった。



成績報告に訪れた中山選手(左から4人目)と中野選手(左から3人目)

硬式野球 8季ぶりのV

「東海地区秋季岐阜学生リーグ」において、体育会硬式野球部は2008年秋季以来、8季ぶり9度目のリーグ優勝を決めた。

剣道 東海女子学生剣道優勝大会で優勝

「第35回東海女子学生剣道優勝大会」で4年ぶり3度目の優勝。

男子は「第59回東海学生剣道優勝大会」で第3位を獲得。



バレーボール 全日本バレーボール選手権(東海ブロック)で準優勝

「天皇杯・皇后杯全日本バレーボール選手権大会東海ブロックラウンド」で準優勝し、12月開催(東京・宮崎)のファイナルラウンドへの出場権を獲得。

ホッケー 西日本学生選手権で準優勝

「第40回西日本学生ホッケー選手権大会」で宿敵の立命館大学に0-1で惜敗し準優勝。

相撲 全日本女子相撲で準優勝

「第3回全日本女子相撲郡上大会」でみごと準優勝。

軽量級 準優勝 山元 佳美(ビジネス企画2年:岐阜)

重量級 準優勝 野上 麻奈(ビジネス企画2年:岐阜)

団体 3位入賞 朝日クラブ



SPORTS

自転車競技

「全日本選手権」連覇達成

トップレベルのプロとアマチュアが出場する国内最高峰の「第15回全日本選手権大会」が日本CSC(静岡県)で開催され、矢野智哉選手(ビジネス企画2年:岐阜)が4kmTPでみごと連覇を達成した。

また、来年の東京国体開催会場の立川競輪場で開催された「第47回全国都道府県対抗競技大会」では、スプリントで松本貴治(ビジネス企画1年:愛媛)が初優勝を、チームSPで松本諒太・廣田敦士(共にビジネス企画3・2年:三重)、4kmTPで矢野選手が、それぞれ大会新記録で優勝し全国制覇を成し遂げた。

全日本インカレ8年連続「総合入賞」



強豪校と争い入賞をはたしたチームスプリント

「文部科学大臣杯第68回全日本大学対抗選手権」が、鹿児島県根占競技場ほかで開催された。スプリント、4kmIP、ポイントレースでの準優勝やタンデムSP、チームSPなどでの入賞をはたした体育会自転車競技部は「男子総合6位入賞」の好成績を収め、創部3年目からの「8年連続総合入賞」をはたした。

卓球

東海リーグ(女子)を制覇

名古屋市名東スポーツセンターで開催された「東海学生卓球秋季リーグ戦」において、体育会卓球部は女子が「優勝」、男子は「準優勝」に輝いた。

最終戦まで男女ともに全勝(4勝)で迎えた最終日、宿敵愛知工業大学と優勝をかけて戦った一戦は、女子は本学卓球部の実力が勝り東海リーグを制覇、一方、男子は愛知工業大学に敗れ「準優勝」に甘んじた。この悔しさをバネに、来シーズン「男女アベック優勝」を目標に掲げた卓球部のスタートはすでに切られた。

NEWS



CLOSE UP

本学卒業生で初 司法試験合格

2012年度司法試験合格者の発表が行われ、法学部OG(2009年3月卒業)の松岡恵子さんが、我が国最難関といわれる「司法試験」にみごと合格した。

松岡さんは、法学部を卒業後、名古屋大学法科大学院へと進学し、本年3月に同研究科を修了。みごと1回目の挑戦(受験)での合格という快挙を成し遂げた。得意科目は「刑法」という松岡さんは、在学中、法学部では中村良准教授(商法)ゼミに所属し司法試験をめざし勉学に励んでいた。

合格の報告に訪れた松岡さんは、「後輩たちが自分に続いてくれると信じている」と語った。

2012年度司法試験

受験者数 **8,387名**

合 格 者 **2,102名**

合 格 率 **25.1%** 合格の報告に訪れた松岡恵子さん(中央)



秋季学位記授与式

秋季学位記授与式ならびに修了式が、9月14日(金)に穂積キャンパス6号館大講義室において華やかに挙行された。

今秋の卒業生・修了生は、学部 学位記・修了証書が一人ひとりに授与された卒業生・大学院修了生・留学生別科修了生の総員44名。式典では大友克之学長から、学位記・修了証書が一人ひとりに手渡され、卒業生ら

は緊張しつつも充実感に満ちあふれた面持ちで学位記を受領していた。

新たな門出を祝福

教職員・父母等に拍手で送り出された卒業生たちは皆、朝日大学での学生生活の日々を振り返りながらも、これから始まる新生活への希望に満ちた表情であった。



卒業記念パーティーで新たな門出を祝福

また、式典終了後には、卒業記念パーティーが6号館ホールで開かれ、パーティー会場では、卒業生たちが新たな門出を互いに満面の笑顔で祝福し合っていたのが印象的であった。

秋季入学式を挙行



入学の許可を受ける入学生たち

すがすがしい秋空の下、2012年度朝日大学秋季入学式が、9月15日(土)に穂積キャンパス6号館大講義室にて厳粛に挙行された。

今秋の入学者は、世界7カ国から総員55名(学部・大学院・留学生別科)であった。学長告辞を緊張した面持ちで受けた新入生の新たなページがここ朝日大学でスタートした。

建学の精神遵守を誓う

式典では、森下伊三男副学長から、入学許可に引き続き、「建学の精神に基づき朝日大学での勉学・研究にそれぞれが邁進し、有意義な学生生活を送ってください」と告辞が述べられ、入学生的代表からは、「建学の精神を遵守し、学業成就に向けて日々努力します」との力強い宣誓が行われた。

新入生たちは、建学の精神(国際未来社会を切り開く社会性と創造性、そして、人類普遍の人間的知性に富む人間の育成)を胸に、また、これから始まる朝日大学でのひかり輝くキャンパスライフに、希望に満ちあふれた表情であった。

福島市でラグビー実技指導

体育会ラグビー部の吉川充監督と福島県出身のラグビー部の学生が、福島市ラグビー協会主催の実技講習会講師として招かれた。吉川監督らはラグビーを通じて被災地の一日も早い復興に役立てばと、同市内のあづま運動公園で指導を行った。

がんばれ福島

講習会には、聖光学院高校、松韻学園福島高校、安達高校、福島高校など約200名の高校生たちがグラウンドや体育館での講習会に参加。



吉川監督らの熱い指導を、選手たちが真剣なまなざして聞き入っていたのが印象的であった。

吉川監督らの熱い指導を受ける選手たち